



次郎長



ウォーキング

清水区内にある次郎長ゆかりの史跡を
めぐるガイドウォーキング

2/26

水

10時～12時 集合・解散場所：
清水港船宿記念館「末廣」

参加費

500円（傷害保険代、缶茶、ゆび饅頭付き）
※立寄り施設によっては、別途入館料あり

<申込フォーム>



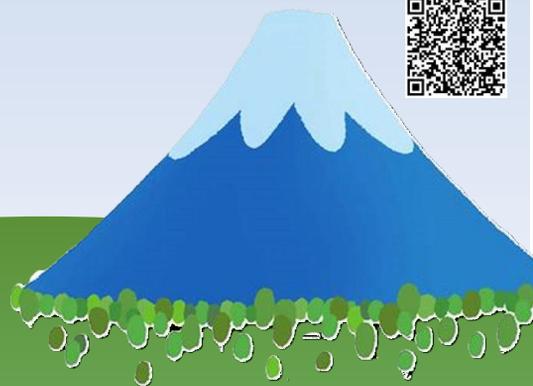
申込先

電話：054-351-6070（月曜休館）※事前申込必須
Email：suehiro@suruga-mtb.or.jp

アクセス

JR清水駅西口3番のりば三保山の手線約6分「港橋」下車
すぐ。車の場合は、駐車場がございませんのでお近くの
有料パーキングにお停めください。

<末廣HP>



「次郎長さんの地元を歩く」

浪曲や時代劇映画で有名な清水の次郎長。幕末維新を駆け抜けた生涯は、生まれてから養子先で過ごした地元美濃輪での23年間。無宿者となり清水一家の親分として抗争と逃走に明け暮れた49歳までの博徒時代。明治以降の社会事業家として地元を根ざした晩年時代。と波乱万丈な人生でした。次郎長さんが郷土に残した足跡や史跡をめぐり、地元で語られてきたエピソードなどを交えて解説。その人物像に迫ります。



① 旧清水湊 次郎長さんが生まれた頃の港は巴川の内にあった！

徳川家康が駿府の外港として整備させた江戸時代の清水湊は巴川の内側にあり、以来幕府の保護を受けながら明治維新まで繁栄が続ききました。米や塩・酒を中心に商う廻船問屋の帆掛け船や舩(はしけ)が川の西側の岸壁に着きました。

② 次郎長生家 1月1日元旦生まれのジnkxsで養子に出される?!

文政3年(1920)、主に薪や炭をあつかう海運業の高木三右衛門の次男「高木長五郎」として生まれる。親戚へ養子となり「高木」の姓では無くなったが、困ると何かと実父の三右衛門を頼ったという。生家は江戸時代の町屋作りに復元され、産湯に使った井戸も残る。

③ 甲田屋跡 喧嘩やいたずら好きの悪がきと恐れられた少年時代

次郎長の叔父(実母の弟)、山本次郎八(当主は代々「山本治郎右衛門」を名のる)が経営した米商甲田屋の跡地。幼少のころ養子となり、「次郎八のところ(せがれ)の長五郎」から「次郎長」という呼び名となった。23歳の時、姉夫婦に稼業を譲り無宿者となって博徒の道に入る。

④ 美濃輪稻荷神社 近代清水港の発展に尽力した証しの玉垣寄進

幼少期の次郎長が、近所の子供らと相撲をとったり遊んだという言伝えがある。明治13年に寄進された神社を囲う石柵(玉垣)に「山本長五郎」の名と、次郎長の子分や親族の名が多く刻まれている。また参拝口付近には、静岡の茶商、清水の廻船問屋、横浜の商人等の名が刻まれている。

玉垣寄進の前年に、清水の人々は大型蒸気船が発着できる波止場を現在の港の位置に新造しました。江戸時代の米や塩の中心の巴川内側の河口港から、お茶の輸出を中心とした

近代清水港への大転換が成されたのです。

この港の実現のために、関係者の間を取り持ち奔走したのが次郎長さんであると云われてきた。玉垣への寄進はその尽力を如実に表わした証しといえます。

⑤ 梅蔭禅寺 **墓や銅像見学が只今閉館中につき今回は立ち寄りません**

明治26年6月12日。次郎長は74歳の生涯を全う。梅蔭禅寺へ葬られた。墓石に彫られた「侠客 次郎長之墓」は咸臨丸と縁の深い榎本武揚の揮毫によるもの。

⑥ 妙慶寺 博徒の親分として初めて所帯をもつ

「庵原川の仲裁」で一躍侠客としての名を売りだした嘉永2～4年、次郎長30歳の頃、江尻の大熊の妹（初代お蝶）をめとり、門前に一家を構える。次郎長杉の伝説がある。

⑦ 本町界限 社会事業家次郎長を支援した廻船問屋衆

江戸時代の清水の政治経済の中心部。廻船問屋と呼ばれる商人の店や屋敷が軒を連ねた。次郎長は清水銀行本店を訪ねたあと本町の間屋街を巡店するのが晩年の日課だったという。明治2年、廻船問屋松本屋平右衛門宅で次郎長は江戸浅草の町火消で侠客の新門辰五郎と会見し、徳川慶喜の護衛役を引き継ぐ。「中泉株式会社」は次郎長が愛知県の半田から清水への出店の仲立ちをしたと社史にある。

⑧ 港橋 波止場への荷物の搬送が便利に

清水町と波止場との運送の便宜を図ることを目的に、地元有志で費用を出し合い明治12年、波止場の完成と同年架橋。

⑨ 壮士墓 次郎長の人生の分岐点となった咸臨丸事件との遭遇

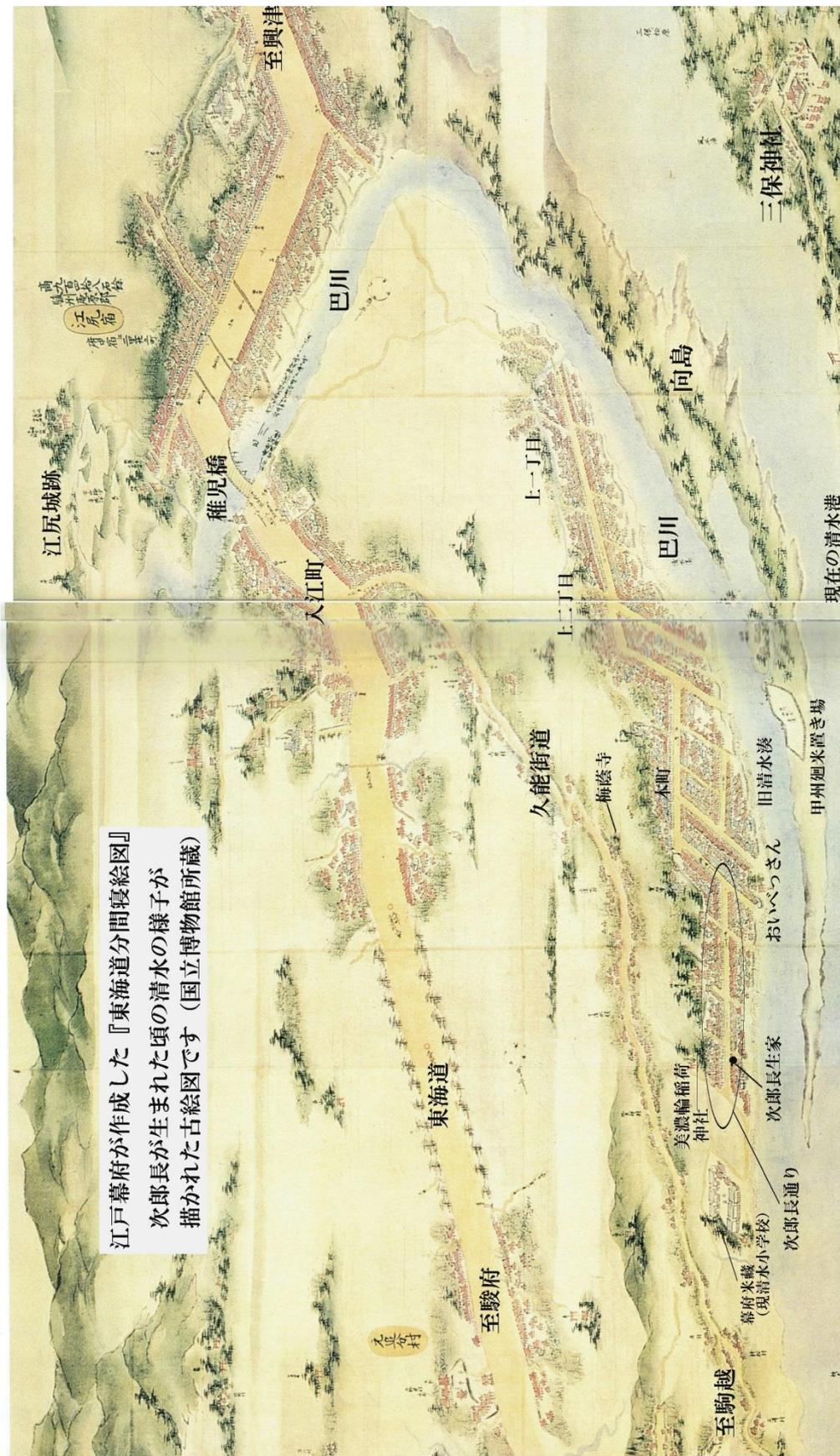
明治元年（1868）9月18日、内戦の犠牲者となった旧幕府軍艦咸臨丸の乗組兵士の墓。湾内に浮遊する幕軍兵の屍を「死ねば皆ほとけ」と次郎長が手厚く葬った。

これを知った山岡鉄舟は次郎長の義挙に感銘し、墓碑に「壮士墓」と揮毫して与えた。山岡鉄舟との出会いが、博奕打ちだった次郎長の生き方を変え、地元の発展に尽くす社会事業家への道を開いた。

⑩ 船宿末廣 清水港のゲストルーム。海軍兵に武勇伝を語る

明治19年（1886）清水港波止場に建てられた次郎長晩年の住居兼船宿。紆余曲折を経て平成13年4月に現在の地へ復元された。柱や梁など当時の建築材を使用。主に明治以降から晩年までの次郎長の生き様にスポットを当て、数々の社会事業を裏付ける資料等を展示している。

[解説案内役 次郎長翁を知る会 美濃輪町 中田]



江戸幕府が作成した『東海道分間寝絵図』
次郎長が生まれた頃の清水の様子が
描かれた古絵図です (国立博物館所蔵)

